



## 植樹ボランティアをしませんか？

村井 俊治



私は 1991 年の 20 年前からタイで植樹ボランティア活動をしています。「RGM (リ・グリーン・ムーブメント) ~ 熱帯林を再生する運動」、と名づけています。いろいろな植樹ボランティアがあるようですが、私たちの活動はユニークだと思います。全部会員の浄財でまかない、一切補助金はもらっていません。タイに行くのは、勿論各自費用を負担します。ただタイの王室の中のシリントーン王女様の進めるプリンセスプロジェクトの傘下に入れてもらっています。

村に植樹をしても、何年かして樹木が大きくなると村人は収入を求めて伐採してしまいます。私が目指している植樹は林業としての造林ではないです。環境保護林として、永久に伐採しない森林を造ろうとしています。つまり、地下水保全、土壌流出防止、災害防止、二酸化炭素固定などが目的なのです。日本のように宗教を利用するか、王室に支援してもらうかの二つしか森林を守る手段はないです。私は王室に助けてもらう道を選びました。たまたまシリントーン王女様を知っていたこともあります。村人には、「この植樹した森は王女様の森だから大切にしてください」と言うだけで、絶対に伐採しないです。

毎年 20 人近い日本人ボランティアとタイの仲間および村人 500 人が集まり、約 1 万本から 2 万本の苗木を植えてきました。最初の 10 年はミャンマー国境近くのラチャブリー県で、最近の 10 年は北部のラオス国境近くのナン県で植樹をしています。暑い中、遠い異国に行って植樹するのですが、植えた後はとてもさわやかです。何年も見届けたくなくなります。すくすくと育って欲しいと願いが高まります。子供を持った感じです。ボランティアにはリピータが多いです。毎年楽しみにしてくれています。

ナン県の植樹を進めている地区にはシリントーン王女様が進める地域開発プロジェクトのセンターができました。立派なゲストハウスが完成したのです。ボランティアは、植栽日の前日、原野の中の 1 軒屋みたいな場所に全員泊まります。地元で取れた美味しい野菜料理もできます。町からアイスボックスに入れたビールを買い込んでパーティをこっそりします。本当はアルコール禁止なのですが、責任者のキテイさんは、日本人の文化と言うことで許してくれます。タイ人の鷹揚な良い性質です。リーダーの私も一切うるさいことは言いません。環境のことと言わないです。自然と森林を造ることが大事だと言うことが分かればよしとしています。

70 才近くになって、さすがに遠いタイの山奥に行くのが負担になりつつあります。誰か若い世代が継いでくれるのを期待しています。皆さん、植樹をしませんか？



(2009.4.25 著)

